

平成10年度第2回幹事会報告

平成10年7月16日

国立京都病院病院

[報告・協議事項]

事務局(総務・会計・企画)：①共同事業運営会議(98/05/09聖路加国際病院)に小田中徹也、首藤佳子、大橋真紀子が出席。報告は、会誌17(2), 98に掲載済。②第69回日本医学図書館協会総会(98/05/21, 22自治医科大学地域医療情報研修センター)に 事務局長(小田中徹也)が出席。会長が清金公裕(大阪医科大学図書館長)に交替。個人会員制の導入。③第72回近畿地区医学図書館協議会例会(98/07/03 兵庫医科大学)に、小田中徹也、中嶋和子が出席。第4回シンポジウムの開催については病図協は従来どおり協力する。④第5回医学図書館員基礎研修会(98/08/05-07 滋賀医科大学)に、病図協から3名が参加申込。⑤第5回継続教育コース・医学図書館研究会(98/11/11-13東京慈恵会医科大学高木会館)の参加者・発表者募集の案内紹介。⑥新会員(98/06/01付)：市立豊中病院 ⑦会員異動：会員異動欄参照。

研修部：第1回研修部会議(98/04/25 社会保険神戸中央病院)では、研修部員の役割分担、年間スケジュールなどを協議した。また、第2回研修部会議(第86回研修会当日)では、夏のセミナー形式の第87回研修会(98/07/31-08/01 ベアレー神戸)の詳細について協議した。第86回研修会(98/06/04阪和記念会館)は、主に新入会員や新任者向けのプログラムで開催し、参加者は24名であった。また、第87回研修会の準備状況が報告され、第1日目には、「病院図書館員をとりまく、今日的キーワードを押さえよう！」のテーマで、演題5題の講演、第2日目は、「病院図書館員の専門性とは何か」のテーマで、ワークショップを開

くことが、報告された。

会誌編集部：今年度の編集部体制について、レイアウトの外注化で部員の負担軽減をはかること、部員の役割分担による負担の分散化などの報告があった。また、編集方針や18巻1-4号の記事企画についても報告された。なお、18巻1-2号はすでに発行済み。

統計調査部：担当幹事が欠席のため、報告事項はなかったが、従来の項目を継承して実施することにした。インターネット関連の項目については再考することにした。

目録編集部：総合目録の寄贈先をリストアップすることにした。98年版の現行所在目録作成については、7月に会員へ案内、8月末データ提出締め切りで作業を進めることにした。

[協議・決定事項]

(1)共同事業について：「病院図書館員認定資格制度」検討班長(首藤佳子)より、概要の報告があった。2月のアンケート調査、今後の予定、検討班の班員について報告された。また、司書制度に関する動向も紹介された。そのうち、教育カリキュラム案編成作業にあたる班員として、林伴子と浜口恵子の両名に加わってもらうことにした。

(2)協議会ハンドブックの作成について：企画担当幹事(首藤佳子)より構成案が示され、これに沿って作業を進めることにした。また、このハンドブックの編集担当幹事は、山室真知子があたることにした。作業日程は、9月26日までに各事業部から原稿提出、10月第3回幹事会で全体草案の協議、を予定した。

(3)近畿地区医学図書館協議会の第4回シンポジウムには、今年度も協力することにし、実行委員として幹事の山室真知子があたることにした。

(4)今年度の東海地区での研修会は、当地区の会員が中心に企画・運営することにし、会としては必要に応じて企画・経費での支援をすることにした。森川治美が世話役担当幹事としてとりまとめることにした。

(5)研修会の講師謝礼金は、会の内外の講師にかかわらず、1～3万円の範囲で適宜支払うことにした。

(6)総合目録1997年度改訂版のデータをもとに、データベース汎用ソフトで所蔵検索・文献申込システムを試作することにした。須井麻由美が担当し、第3回幹事会に α 版を提出する予定にし、その後、数名にモニターを依頼することにした。

— <新入会員> —

27044 市立豊中病院 (略称: 豊市病)
〒560-0055 大阪府豊中市柴原町4-14-1
TEL 06-843-0101 FAX 06-858-3599
施設長: 木村正治
担当者: 高井真紀子 (専任・司書)

— <会員異動> —

健生病院
施設長: 佐藤仁秀→蟻塚亮二
国立京都病院
施設長: 阿部正幸→粉川皓仲
星ヶ丘厚生年金病院
施設長: 上野良三→松永 喬
市立岸和田市民病院
施設長: 景山直樹→古庄巻史